

# 高度医療で地域を支える 2022

進歩する医療技術に伴い、がん治療においても選択の幅が広がっています。ただ、選択肢が増えたからこそ「何をどう選べばいいのか」「これでいいのか」という難しさを感じることもあります。

また、告知後、十分に受け入れる間もなく物事が進む中で仕事や家庭に関する気がかりや、「なぜ自分だけがこんな目に遭ったのか」「何のために頑張ってきたのか」というような気持ちのつらさを抱える方もいらっしゃいます。

今回はがんと向き合う患者さんを支えるための当院



うえはら・のりこ 岡山赤十字病院看護専門学校卒業。2013年より津山中央病院に入職し、14年に緩和ケア認定看護師を取得。現在は外科・泌尿器科病棟へ所属。

## ⑥ がんと向き合う患者さんを支える

津山中央病院緩和ケア認定看護師 上原 徳子

のサポート体制を一部ご紹介したいと思います。

皆さんは「緩和ケア」という言葉をご存じでしょうか。治療ができなくなってきたら受け取るものというイメージを持たれている方もいらっしゃるかと思います。終末期のサポートや看取りは緩和ケアが中心となること

とも事実ですが、緩和ケアの役割はそれだけではありません。

緩和ケアは、体のつらさや気持ちのつらさをやわらげることで、患者さんのQOL（Quality of Life）の維持・向上を目指すケアです。治療と並行して問題を解決した

りや問題を把握します。そして、患者さんやご家族、主治医をはじめ医療スタッフで改善策を検討しています。チームでの対応は入院中の患者さんご家族に限られますが、緩和ケア外来でも医師がお話をうかがっています。その上で、内容に応じて緩和ケアチームのメンバー等が対応することもあります。

当院の緩和ケアチームでは医師、看護師、薬剤師、医療ソーシャルワーカー、心理職、管理栄養士が活動しています。まずはしっかりと話をうかがい、気がか

りや問題を把握します。そして、患者さんやご家族、主治医をはじめ医療スタッフで改善策を検討しています。チームでの対応は入院中の患者さんご家族に限られますが、緩和ケア外来でも医師がお話をうかがっています。その上で、内容に応じて緩和ケアチームのメンバー等が対応することもあります。また、がんの相談窓口として、がん診療相談支援セ

ンターがあります。全国のがん診療連携拠点病院等に設置されており、患者さんやご家族など、どなたでも無料でご利用いただけます。当院では医療ソーシャルワーカー、心理職、看護師が相談員として対応しています。

例えば、診断や治療の判断をすることはできませんが、「がんだったらどうしよう」との思いから検査をためらう方、がんと診断後に情報の不足から戸惑い・不安を抱える方に、情報提供や情報整理のお手伝いをします。また、「できるだけ家で過ごしたい」という方に在宅サービスに関する情報提供や利用のサポートを行います。

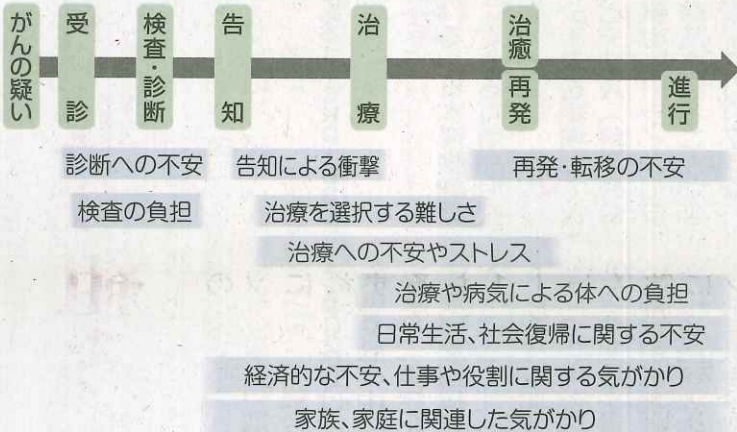


緩和ケアチームでのカンファレンス



病室訪問時の様子

### がん患者が抱える気がかり



行き場のない思いを抱えながらも、家族や周りの人に話すことをためらい、一人で抱えこんでしまう方もいらっしゃるかと思います。解決は難しいことありますが、話をすることで気持ちが楽になることもあるため、気持ちを吐き出す場の一つとしてもご利用いただければと思っています。